

平成28年第1回福岡県教育委員会会議（定例会）会議録

1 開催日時

平成28年1月7日（木）15時00分から15時47分まで

2 場所

福岡県庁4階 教育委員会会議室

3 出席委員

奥田竜子、清家渉、久保田誠二、宮本美代子、住吉徳彦、城戸秀明（教育長）

4 欠席委員

なし

5 出席事務局職員

教育次長 西牟田龍治、理事 友野晃、総務部長 川添弘人、
教育企画部長 吉田法稔、教育振興部長 辰田一郎、総務課長 木原茂、
財務課長 後藤和孝、文化財保護課長 赤司善彦、企画調整課長 日高公德、
社会教育課長 上田哲子、教職員課長 原田靖、施設課長 平川真一、
高校教育課長 中島良博、義務教育課長 相原康人、
人権・同和教育課長 高田裕康、体育スポーツ健康課長 寺崎雅巳

6 傍聴者等数

なし

7 会議

開会に先立ち、奥田委員長から年頭のあいさつがあった。

奥田委員長から、昨年を振り返り、教育に大きな変化の波が来ている中、各課においては様々な新しいことに取り組んだ年となり、その努力に感謝したい。教育で一番大切なのは、将来自立して生きていく力を養うことであり、新聞等で、子どもの貧困や教育格差が報道されている中、どのような家庭環境の子どもであっても、将来の夢を実現する方法を知り、そこへ向かう過程でぶつかるであろう困難に打ち勝つ力を学ばなければならないため、学校現場の果たすべき役割は大きい。子どもと教員との緊密な関わりによって、子ども達の将来が輝くものになると考えており、そのために、私達は学校現場を全力でサポートしていかなければならない。また、教員の大量退職時代を迎えた今、優秀な人材の確保のためにも魅力ある学校現場になるよう取り組まなければならない。更

に、保護者と学校が一体となって、力を携えて取り組んでいくことが出来れば嬉しく思う。最後に、科学技術が発達するなか、これまで大切にされてきた倫理観や他者を思いやる心がますます重要になってくると考えており、これまでの教育も大切にしていきながら、福岡県の教育が全国に誇れるものになるよう、協力しながら取り組んでいきたい旨のあいさつがあった。

15時00分、奥田委員長が開会を宣言し、本日の議題について非公開発議の有無の確認を行った。

第1号議案「平成27年度福岡県教育文化表彰について」は、個人及び団体の顕彰に関する案件のため、住吉委員から非公開とする発議があり、直ちに採決され、出席委員の3分の2以上の賛成をもって非公開と決定された。

その他の議案については、非公開の発議なく公開と決定された。

(1) その他

- ・平成27年12月定例県議会における教育委員会答弁要旨

城戸教育長から、12月定例県議会における教育委員会関連の代表質問、一般質問に対する以下の答弁要旨について説明があった。

(代表質問) 教育力向上福岡県民運動の見直しについて、学力向上の目標達成に向けての取組について、読書運動の推進について、ICT機器の今後の整備方針について、教職員に対するメンタルヘルス対策について、「教育大綱」と「福岡県総合計画」の教育分野との関係について、福岡県教育振興基本計画の見直しについて、学校教育振興プラン(仮称)と福岡県教育施策実施計画との関係について、本県教員の採用試験の改善について、夜間中学の設置促進に係る国の動向と今後の県教育委員会としての対応について、発達障害のある子どもの義務教育の現状について等

(一般質問) 教員の病気休暇者に対する代替措置について、城野遺跡の現地保存について、小中学校における貧困家庭への経済的支援策と学力格差に対する取組について、高等学校段階における就学支援について、就学援助制度の周知状況及び支給費目拡大について、文化財保護に係る予算の確保について、学校における教育の情報化の状況について、中学校や高等学校への無料学習支援ソフトの紹介について、本県独自のICTを活用した学習支援の取組について等

次いで、宮本委員から、携帯・スマートフォンの使用に関する取組について質問があった。

これに対して、相原義務教育課長から、発達段階に応じた取組の必要性を認識しており、家庭やP T Aとの連携に加え、中学校や高校では、特に生徒会等が中心となって自発的に生徒が取り組むことが重要と考えている旨の説明があった。

(2) 議事

・第1号議案 平成27年度福岡県教育文化表彰について

木原総務課長から、前回の教育委員会会議における協議内容を踏まえ、福岡県教育委員会表彰規則に基づき、受賞者を決定するものである旨の説明があった。

次いで審議が行われ、第1号議案は原案どおり可決された。

奥田委員長が閉会を宣言し、15時47分閉会した。